

# 令和7年度 加古川市立平岡南中学校 学校評価

## 【学校評価実施方法】

- 自己評価
  - 学校の生徒・保護者・教職員が行う評価。重点目標の達成へ向けた学校の具体的な取組を評価項目・内容として設定
  - その達成状況を評価する。
  - 「そう思う」を4点、「ややそう思う」を3点、「あまり当てはまらない」を2点、「当てはまらない」を1点
  - 上記点数を、3.5以上は◎、3.0以上は○、2.5～3.0は一、2.5以下は△、2.0以下は▲で表記
- 学校関係者評価
  - 学校自己評価の客観性・透明性を高めるために実施。
  - 保護者、地域住民等の学校関係者などにより構成された評価委員会(学校運営協議会)が、自己評価の結果について評価する。
  - 評価委員会(学校運営協議会)が、自己評価の結果について評価する。
  - 評価は「A 適切である」「B 熟慮を要する」「C 不適切である」の3段階でおこなう。

## 1 教育課程・学習指導

※【満点は4点】 3.5以上は◎、3.0以上は○、2.5～3.0は一、2.5以下は△、2.0以下は▲で表記

教育課程・学習指導	生徒アンケート内容		今年度数値	昨年度数値	
	1	毎日の授業で、忘れ物はしていない。	3.30	○	3.34
	2	興味や関心をもって、先生の話をよく聞き、授業に取り組んでいる。	3.39	◎	3.33
	3	授業では、級友(クラスメイト)の意見を参考にし、自分の考えを深めようとしている。	3.39	◎	3.39
	4	授業では、進んで発表をしている。	2.59	—	2.67
	5	家庭学習(塾の時間も含む)は、1日平均何時間やっているか。 ①2時間以上 ②2時間以内 ③1時間以内 ④やっていない	2.77	—	2.65
	6	テスト勉強は、目標・計画を立て、学習方法を工夫しながら取り組んでいる。	2.93	—	2.92
	保護者アンケート内容		今年度数値	昨年度数値	
	1	お子さまは、家庭学習(予習・復習・宿題・テスト勉強など)に取り組んでいる。	2.87	—	2.83
	2	学校は、ICT環境も含めた個に応じたわかりやすい授業を工夫している。	2.84	—	2.84
3	お子さまは、学校や家庭で読書をする習慣がついている。	2.13	△	2.11	
教職員アンケート内容		今年度数値	昨年度数値		
1	ICTの活用やきめ細かな学習指導等を通して、「個別最適学び」の充実に取り組んでいる。	3.35	○	2.70	
2	協同的探究学習を意識した授業改善を行い、「わかる学力」の育成とともに、思考力・判断力・表現力の向上に取り組んでいる。	3.61	◎	3.00	
3	兵庫型学習システム等によるきめ細かい指導を行っている	3.16	○	—	
4	朝の読書や図書室の利用を通して読書活動を推進している	3.44	○	—	

自己評価

**B**

関係者評価  
ABC

**B**

## 【協議会委員のご意見】

- 部活動の地域移行を見据え、学校の「授業」そのものの魅力を高める取組を実践されている。
- 協同的探究学習の推進・教職員が一方向的に教え込むのではなく、生徒が「面白い」「自分の意見が言える」と感じられる授業づくりを研究されている。
- 教職員の資質向上：部活動がなくなった後も「学校が楽しい」と思える場所であるために、授業の質を向上させることが最重要課題とされている。

## 2 特別支援・生徒指導・不登校

※【満点は4点】 3.5以上は◎、3.0以上は○、2.5～3.0は一、2.5以下は△、2.0以下は▲で表記

生徒指導	生徒アンケート内容		今年度数値	昨年度数値	
	7	あいさつをする、身だしなみを整える、時間を守る、正しい言葉づかいをすることなどを心がけて学校生活を送ることができている。	3.42	○	3.44
	8	毎日楽しく学校生活を送ることができている。	3.53	◎	3.54
	9	学校は、いじめや困ったことがあったときに適切に対応している。	3.33	○	3.37
	10	必要な時には、先生等に相談ができる。	3.36	○	3.33
	保護者アンケート内容		今年度数値	昨年度数値	
	4	お子さまは、挨拶をする、時間を守る、身だしなみを整える等の生活習慣が身についている。	3.07	○	3.09
	5	学校は、いじめを絶対に許さない姿勢で取り組んでいる。	3.02	○	3.09
	6	学校は、それぞれの生徒の多様性を認め尊重してくれている。	3.10	○	3.15
	教職員アンケート内容		今年度数値	昨年度数値	
5	いのちや心、多様性や包摂を大切にす「心の教育」の充実に努めている。	3.72	◎	3.32	
6	「アセス」「心の相談アンケート」「教育相談」等による生徒理解を図り、いじめを許さない集団づくりに努めている	3.91	◎	—	
7	自治的・自発的な生徒会活動が行えるように助言を行い、サポートすることができている	3.50	◎	—	
8	あいさつ、正しい言葉遣いや服装など、基本的な生活習慣の確立に向けた指導をしている。	3.29	○	3.45	
9	生徒の活動場面(清掃・昼食・行事等)における積極的な関わりや、アセス、教育相談等を通しての生徒理解により、いじめの未然防止や早期発見に努めている。	3.79	◎	—	
10	生徒一人ひとりの特性の理解に努め、生徒のニーズに応じた支援の充実に努めている。	3.56	◎	3.53	
11	不登校生徒等への支援の充実に向け、サポートルームとの連携を図るなど組織的な体制が確率している。	3.64	◎	—	

自己評価

ABC

**B**

関係者評価  
ABC

**A**

## 【協議会委員のご意見】

- 中学1年生の不登校傾向：新しい人間関係や勉強の難化による「中1ギャップ」が要因の一つ。小学校から不登校傾向にある生徒が、中学校で頑張ろうとして2学期以降に息切れするケースも見られた。
- 生徒の気質と相談体制：昔に比べ「おとなしい」印象だが、内面で抱え込む自責型の生徒や、陰湿な嫌がらせの発生が懸念されている。そのため、担任以外の先生にも相談できる「学年担任週間」を設け、相談のパイプを複数作っている。
- トライやる・ウィーク：挨拶や主体性に関する課題も指摘されたが、生徒の戸惑いを理解し、事業所側からも積極的に声をかけてもらうよう促している。
- 人権意識の向上：LGBTQの学習・講演により、多様性の理解を深めていることが「誰かの人権を守るだけでなく、自分の人権も守る」という視点での丁寧な指導が、健やかな精神・身体の育成となっている。

### 3 保健・安全教育・食育

※【満点は4点】 3.5以上は◎、3.0以上は○、2.5～3.0は一、2.5以下は△、2.0以下は▲で表記

保健・安全教育・食育	生徒アンケート内容		今年度数値	昨年度数値	
	11	健康目標「早寝・早起き・たっぷり睡眠・朝ごはん」を意識して、十分な睡眠、朝食がとれている。	3.23	○	3.26
	12	給食をおいしく残さず食べられている。	3.57	◎	3.34
	13	交通ルールやマナーを守り、安全に気を付けて登下校できている。	3.78	◎	3.79
	14	学校は、施設面で危険がなく安全に過ごせる場所である。	3.64	◎	3.70
保護者アンケート内容		今年度数値	昨年度数値		
7	お子さまは、学校給食を楽しみにしている。	2.98	○	2.88	
8	学校は、環境が美しく整備されている。	3.26	○	3.29	
9	学校は、交通ルールやマナーを守る等登下校の通学路における安全対策を行っている。	3.11	○	3.06	
教職員アンケート内容		今年度数値	昨年度数値		
12	睡眠や食習慣などの生活リズムの大切さについて指導し、健康教育を推進している。	3.21	○	-	
13	給食をおいしく食べたり残食を減らしたりするための工夫をしている。	3.64	◎	3.35	
14	様々な非常災害時に自分がとるべき行動を十分把握している。	3.62	◎	3.03	

学校評価  
ABC

A

関係者評価  
ABC

A

#### 【協議会委員のご意見】

・登下校の安全とマナー: 信号付近での広がり歩きや、神社・墓地付近での長時間の立ち話が気になる。冬場の暗い時間帯の防犯や、交通安全への自覚を促す必要がある。  
 ・心の健康: 不登校に直面した生徒の「なぜ自分は学校へ行けないのか」という葛藤に対し、一人ひとりに寄り添った個別サポートの重要性が今後の課題である。

### 4 地域社会との連携・その他

※【満点は4点】 3.5以上は◎、3.0以上は○、2.5～3.0は一、2.5以下は△、2.0以下は▲で表記

地域社会との連携・その他	生徒アンケート内容		今年度数値	昨年度数値	
	15	学校行事や当番活動、学級活動など、挑戦し続ける姿勢を持つことができた。	3.56	◎	3.56
	16	ホームページや配信メール、学年通信、保健だよりなどの情報はわかりやすい。	3.41	○	3.47
	17	地域の行事や奉仕作業があれば、参加するなど、地域貢献を心がけている。	2.85	—	2.95
	18	地域の人に出会ったら、進んであいさつをしている。	3.29	○	3.36
保護者アンケート内容		今年度数値	昨年度数値		
10	学年通信や保健だよりなど、学校からの配布物は確実に届いている。	2.98	—	3.04	
11	本校のホームページ・スクリーンなど、開かれた学校づくりを推進している。	3.36	○	3.49	
12	学校行事(参観日、体育大会等)に参加し、子どもや学校の様子を見るように心がけている。	3.64	◎	3.63	
13	保護者が参加できる行事の回数は適切である。	3.57	◎	3.55	
14	学校は、地域の人材や施設を積極的に活用している。	2.97	—	3.08	
15	学校の教職員は、礼儀正しく、丁寧に対応できている。	3.39	○	3.43	
教職員アンケート内容		今年度数値	昨年度数値		
15	修学旅行や万博への校外学習、トライやる・ウィーク等を通してキャリア教育を充実させている。	3.76	◎	-	
16	校内研修や悉皆研修等の教育課題に対応する研修に参加し、常にアップデートを心がけ、資質向上・自己研鑽に励んでいる	3.71	◎	3.23	
17	協働体制を構築し、タイムマネジメントや長期休業中の計画的休暇の取得により超過勤務時間の削減に努め	3.06	○	-	
18	適切な言動と丁寧な対応を心がけ、生徒や保護者、地域からの信頼確保に努めている。	3.65	◎	3.42	
19	地域行事への参加やトライやる・ウィーク等で保護者や地域との連携や協働に努めている。	3.50	◎	-	
20	「学校園ユニット」の取組に協力し、地域の学校園との連携に努めている	3.44	○	-	

学校評価  
ABC

A

関係者評価  
ABC

A

#### 【協議会委員のご意見】

・地域行事への参画: 地区の交流事業において、出身小学校を問わず参加できる枠組みを作り、中学生の力を借りながら多世代交流を活性化させたい。  
 ・「赤ちゃん先生」事業: 命の教育として定評があるが、今後の予算や講師派遣の継続性に懸念があり、地域側からの情報提供や支援が必要。  
 ・見守り活動の協力: 教職員の働き方改革(下校指導のあり方など)に伴い、地域住民や役員がどのように協力体制を築いていけるかが今後の課題である。